



追悼

大坂譲治先生を偲んで

名誉会員 三浦 文夫

東北福祉大学名誉教授・本学会名誉会員、大坂譲治先生の訃報に接したのは、2013年3月10日のことであった。小生とは家族ぐるみの57年に及ぶお付き合いで、刎頸の友であった。それだけに兄貴を失ったような悲しみは今も続いている。ご冥福を祈るばかりである。

故人とは中部社会事業短期大学(現在の日本福祉大学)で7年間苦楽を共にしてきたが、それ以来の親交である。それだけに語るエピソードは尽きないが、紙幅の関係で割愛せざるを得ない。幸い、鉄道弘済会発行『社会福祉研究』第72号の「私の実践・研究を振り返って」という随想欄に故人に対するインタビュー記事が収録されているので参考にしてほしい。故人はバプテスト教会の牧師であった厳父大坂鷹司師の長男として1924年に川崎市に生まれ、父君の仙台の教会への転任、さらに仙台キリスト教育児院長への就任ということで、幼少から仙台で過ごすことになる。生まれながらのクリスチャンであり、児童養護との関わりも少年時代からのものである。加えて敗戦後の戦災孤児との出会いもあり、専門的に児童福祉を学ぶべく48年に日本社会事業専門学校研究科に入学した。この時期に先輩・同級生などの影響もあり、児童福祉の勉強よりは社会科学の研究に傾倒したようである。同校を卒業後、貧困や日雇労働者、零細企業の労働問題などに関心をもち、名古屋時代の研究論文にはそれらを素材にしたものが多い。

しかし、1963年に社会福祉法人仙台キリスト教育児院に転じた以降は、社会科学の理論と研究に理解をもつクリスチャン・ソーシャルワーカーとしての姿を鮮明にされてこられる。71年から東北福祉大学で教鞭をとられ、数多くの卒業生を世に送り出しているが、なかには本学会会員となっている者も少なくない。本学会では4期(12年間)に亘り役員(理事)を務められ、特に東北地域ブロックでは終始リーダー的役割を果たしてこられた。

なお、東北ソーシャルワーカー協会の会長職を歴任され、またキリスト教社会福祉学会の熱心な会員でもあり、2007年に同学会の名誉会員にも推薦されている。仙台キリスト教育児院での天職に就かれて以来、聖書を肌身離さず、折にふれて、その一節を紐解き、施設運営や教育に当たってこられてきた。

第51回日本社会福祉学会全国大会の翌日に開催された2003年度の総会で、名誉会員に推挙された折に「過日、糟糠の妻である智子夫人が洗礼を受けたが、それと同じくらい今回の推薦は嬉しい」という趣旨の挨拶をされている。今あらためて愛妻家であるクリスチャン・ソーシャルワーカーの故人の面影を思い出している。